

平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 12	公益目的事業 17
主査名	岩尾 詠一郎 ・ 専修大学商学部 教授	
研究テーマ	ライフスタイルの変化にともなう新たな物流サービスの成立要件に関する研究	

研究の目的：

近年の少子高齢化による過疎化問題や高齢者の介護問題や医療問題、女性の社会進出や生活の 24 時間化、商品の差別化等による生活の多元化、および情報化や国際化、ICT 化により、人々のライフスタイルが変化している。この少子高齢化、生活の多元化、情報化、国際化、ICT 化は、小口貨物の多頻度輸配送の増加等の物流サービスに影響を与えることがあるため、ライフスタイルの変化により、新たな物流サービスが必要となる場合もある。このことから、ライフスタイルの変化と新たな物流サービスの相互関係を明らかにするとともに、新しい物流サービスの成立要件を明らかにする必要がある。

そこで、本研究では、ライフスタイルの変化にともなう新たな物流サービスが成立する要件を、実際に新たな物流サービスを行っている事例をもとに、実態分析を行うことで、新たな物流サービスの成立要件を明らかにしていくことを目的とする。

研究の経過（4 月～9 月）：

上期では、研究を「ICT 化と少子高齢化と流通チャネル WG」、「コンパクトシティーWG」、「中山間地域問題 WG」、「宅配サービス WG」の 4 つの WG で研究の検討を行った。

具体的には、「ICT 化と少子高齢化と流通チャネル WG」では、5 つの商品の販売方法別（小型店舗の出店、店舗型配送サービス、店舗での置き置きサービス、コンビニ受取、ネット宅配）に成立要件を明らかにするために、販売方法別に利用可能性の分析方法を明らかにした。「コンパクトシティーWG」では、コンビニ以外の商業施設の集約による自動車からの自転車・徒歩への転換の影響分析方法を明らかにした。「中山間地域問題 WG」では、生活必需品の帰り便によるリサイクル品輸送に適した地域、トータルコストや収入の算出方法、およびリサイクル品の排出量予測方法を明らかにした。「宅配サービス WG」では、宅配便の端末輸送に着目した場合の事業性の分析方法を明らかにした。

下期へ向けて（課題等）：

下期では、「ICT 化と少子高齢化と流通チャネル WG」では、販売方法別に実施上の課題を示す。「コンパクトシティーWG」では、コンビニ以外の商業施設が集約した場合の効果と課題を示す。「中山間地域問題 WG」では、生活必需品の帰り便によるリサイクル品輸送を実施した場合の課題を示す。「宅配サービス WG」では、宅配便の端末輸送に着目した場合の事業性の課題を示す。

以上の分析を通して、ライフスタイルの変化にともなう新しい物流サービスの成立要件を明らかにしていく予定である。

研究メンバー（敬称略）：

岩尾詠一郎（主査・専修大学） 苦瀬博仁（流通経済大学） 杉山雅洋（早稲田大学名誉教授） 森本章倫（早稲田大学） 渡部幹（建設技術研究所） 石川友保（福島大学） 長田哲平（宇都宮大学） 古明地哲夫（三菱総合研究所） 加藤二郎（三菱総合研究所） 森尾淳（計量計画研究所） 大門創（計量計画研究所） 峯猛（日通総合研究所） 内田大輔（日通総合研究所） 長谷川翔生（建設技術研究所） 椎名主税（国際航業）